

James Molloy - MIRA Newsletter #31

J I Mのみしまものがたり③I

初夏の夜のともしび

1989年頃私は、米国（メイン州）との国境に近いカナダのニューブランズウィック州にいました。少し空気が重たく感じる、蒸し暑い夜。開けた窓からは遠くの声がまるですぐそこで話しているかのように聞こえます。

部屋の明かりを消すと、暗がりの中から興奮したようすのささやき声が聞こえます。最初は何を話しているのか聞き取れませんでしたが、窓に近づいてみるとその興奮の理由がはっきりわきました。

「ホタルだ！」

その当時、私にとってホタルはおとぎ話や漫画にしか出てこないレプラコーン（アイルランドの妖精）やユニコーンと同じような、ほぼ空想上の生物という感覚でした。故郷のニューファンドランド州では、ホタルの放つ魔法のような夜の光は、子どもたちの想像上の存在だったからです。

しかしこのとき、自分から少し離れたところで1秒か2秒ちかちかとしたものが見え、そしてすっと消えたのでした。

その経験から10年後。ある湿気の高い夕方、私は初めて三島でホタルと対面しました。

ニューブランズウィック州でのあの夜と同じように、それはホタルを驚かさないようにしながらも「ねえ！見て！」と興奮しているようすのささやきから始まりました。

当時はまだ日本語がよくわかりませんでしたが、人々の感情は驚くほど世界共通です。やはりそこでもホタルが浮遊していました。



乱舞するホタル（写真提供：三島ホタルの会）

三島での初対面から四半世紀近くたった今でも、私は毎年源兵衛川沿いで人々がささやく声を聞くのを楽しみにし、ホタルの放つうっとりするような光に魅了されているのです。

川のほとりに立つ木々の間から放たれる優しい光を追いながら、この紙クリップ大の発生物は、人間たちにこの美しい瞬間を共有させ、共感することの重要性を認識させる役割を果たしていることに自覚はあるのだろうかとふと考えます。そして、もしかしたら、それこそがホタルの存在意義なのかもしれないという思いに至るのでした。

麦畑（編集後記）

★The fireflies are singing their silent song. (J)

★今夏は大社の祭りも再開とか。やっと光が見えてきた(桜)

★誰もが戦争の無い世界を願っているのに、

戦いが無くならないもどかしさ。何故だろう(明)

★今年の夏も暑いらしい。なのに物価と電気代アップで懐は氷河期…!(S)

★ノーマン・ミネタさん、優しい方でした。(青)

申込み・問合せ

★三島市国際交流協会（MIRA）事務局
TEL 976-1020 FAX 976-1021

★三島市国際交流室
TEL 983-2645
三島市中央町5-5三島市役所中央町別館



▲ホームページ